

寸鉄

大阪市を廃止して設置する「特別区」の区割り素案が明らかになつた。4区案と6区案の2通り。「特別区」の制度設計を議論する法定協が設置され、松井知事や吉村大阪市長は来年秋に再び住民投票を実施する考えだ。

2015年5月の住民投票で否決された「都」構想を煮し返している▼かつての法定協に提案されたのは5区・7区の2種につき、それぞれ北区と中央区を分離または合体する4

案。批判・異論が噴出し、維新が狙った区割り案の絞り込みは頓挫した。当時の橋下市長は6億円の税金を費やして「出直し市長選」を強行。法定協から反対派を排除し、維新単独で5区案の「特別区設置協定書」をでっち上げた▼7区が消え5区は住民投票で否決。だから次は4区か6区というのか▼「だまされないで下さい!!」。11年のダブル選で維新はこう大宣伝した。「大阪市をバラバラにはしません」24区、24色の鮮やかな大阪市に変えま

す」と。「だまされたのは誰か、ますますはつきりしている▼「特別区」設置の根拠法である大都市法が可決・成立(12年8月)したとき、橋下氏が「住民投票で過半数取れるまでは区割り変えまくりますよ」と言い放つたのを思い出す▼「森友・加計」疑惑を通して、国政を私物化する安倍政権に国民の怒りが向けられている。「都」構想にしがみつき、市民不在で制度いじりに明け暮れる維新。これこそ大阪市の私物化ではないか。